

埼玉トヨペット Green Brave

**AUTOBACS
SUPER GT
2020 SERIES**

2020 RACE REPORT

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR スーブラ GT

2020年10月3日(土)~4日(日)

AUTOBACS SUPER GT Round 5

たかのこのホテル FUJI GT 300km RACE

富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■ ■ ■ ■ ■ タイヤ無交換作戦を実行するも表彰台に届かず4位 ■ ■ ■ ■ ■

SUPER GT の第5戦が観客を入れて行われた。レース距離は300km。予選日(土曜日)の天候は晴。公式練習では連続周回時のタイヤ評価を中心に行い、川合選手が1分37秒651をマーク。7位につける。GR スーブラ GTには性能調整の25kgを含む合計100kgのウェイトが積まれているが、富士との相性は変わらず良さそう。Q1のドライバーは川合選手。川合選手は1回目のアタックでトップタイムをマークするが、ライバルも続々と更新しており、アタックを続ける。川合選手は最後のアタックで1分37秒353をマーク。6位に入り、2戦ぶりにQ1を突破した。吉田選手はインターバルの間にリアウイングの角度を調整し、Q2に出場。吉田選手は2回目のアタックで川合選手のタイムをコンマ5秒短縮する1分36秒930をマーク。5位に入り、3列目スタートを確保した。

決勝日(日曜日)の天候は曇り。チームは前日の結果を受け、開幕戦と同じタイヤ無交換でトップを狙う作戦。スタートドライバー、川合選手は5位をキープして1コーナーをクリア。1コーナーではGT500クラスのマシンによるアクシデントが発生しており、すぐにセーフティカー(SC)が導入される。5周目からレース再開。川合選手は猛烈的な勢いで追いつけてきた#56GT-Rを先行させ、6位を走行。#56GT-Rをのぞけば、川合選手のペースはライバルより速く、先行車を次々にパス。21周目に2位まで上がる。30周目、トップの#56GT-Rがピットに入り、川合選手はトップに浮上。川合選手は33周目にピットイン。吉田選手に交代し、給油のみでピットアウトする。

コースに復帰した吉田選手の順位は2位で、39周目に再びトップに立つ。しかし、重い車重とタイヤの摩耗に苦しみ、吉田選手のペースは伸びない。47周目に#56GT-Rに抜かれて2位。さらにランキング上位の#65メルセデスAMGも吉田選手との差を縮めており、58周目にはテールトゥノーズとなる。#65メルセデスAMGが仕掛けるが、吉田選手もラインを変えて応戦。チャンピオン争いを考えれば、#65メルセデスAMGは絶対に前に行かせたくない相手。吉田選手と#65メルセデスAMGの争いは数周にわたって続いたが、その間隙をぬって上位に上がってきたのが#55NSX。みるみるうちに2台との距離を縮め、3台のテールトゥノーズに。#55NSXは60周目に#65メルセデスAMGを抜き、続けざまに吉田選手もパス。単独の2位に上がる。吉田選手と#65メルセデスAMGの3位争いに注目が集まるが、#65メルセデスAMGはタイヤ2本だけを交換しており、吉田選手の分が悪いのは明らか。61周目、コカ・コーラコーナーの進入でインをとった#65メルセデスAMGに抜かれ、吉田選手は4位でチェッカー。相性の良い富士で再び勢いを取り戻したGR スーブラ GTだが、表彰台にあと一歩届かず、悔しい結果となった。

決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR スーブラ GT

(吉田広樹/川合孝汰)

決勝: 4位 (62周、1時間48分42秒328)

予選: 5位 (Q2: 1分36秒930)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	リアライズ 日産自動車大学校 GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	62
2位	ARTA NSX GT3(ホンダ NSX GT3)	62
3位	LEON PYRAMID AMG(メルセデス AMG GT3)	62
4位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR スーブラ GT)	62
5位	TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT(TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV)	62
6位	JLOC ランボルギーニ GT3(ランボルギーニ ウラカン GT3)	61
天候:曇、路面:ドライ ※トップ6まで(出走29台)		



DRIVERS VOICE



第1ドライバー吉田広樹

(予選後) Q1 ではより予選用にアジャストしたのですが、孝汰のコメントを聞いて、もっと予選用に振った方がいいとなって。チャレンジしたら乗りやすくなったので良かったです。クルマが富士に合っているというのはあるのですが、予選5位からスタートできると作戦の幅、いちかばちかの作戦をとらなくて済むので最低限のポジションにつけたと思います。

(決勝後) 苦しかったです。チームの思いを考えたら、レオンの前でゴールしたかったですね。ARTA に抜かれ、後ろにレオンがいる時に無理やりインに入ろうかと思えるぐらいの間隔だったのですが、一時的な感情で行って、万が一リタイアしてしまうと、シリーズがなくなってしまうので。しっかりポイントをとって、つなげられるようにすることが優先と思いました。表彰台をとれなかったのは悔しいのですが、良かったと思います。



第2ドライバー川合孝汰

(予選後) Q1 通りました。良かったです。4 周目のアタック、最終コーナーのひとつ手前で脱輪気味になっていて、チームからギリギリ 8 番手と言われていたのもう 1 周いかせてもらったのが良かったです。Q1 をまかせてもらい、自分としても突破できて良かったですし、最後、自分のアタックで Q2 に行けたのも良かったと思います。

(決勝後) 悔しいですけどいいレースだったと思います。クルマのバランスは全然問題なく、ぼくのステイントではタイヤを傷めないようにして、ブレーキもセーブできていたと思いますが、100kg というウェイトがケアできていない気がします。タイヤが減ってきた時に重さが顕著に出てくるのだと思います。開幕戦であればあのままいけていたかもしれませんが、そう簡単にいかない中でもしっかりポイントを獲得したので、良かったと思います。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	65	K2 R&D LEON RACING	64
2 位	11	GAINER	55
3 位	56	KONDO RACING	51
4 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	48
5 位	55	ARTA	47
6 位	61	R&D SPORT	46

トップ 6 まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社 Team Iwakiri Japan



株式会社ハッピーライフ彩生



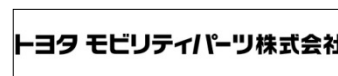
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社ドーム



埼玉スリーボンド株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社

※50 音順

【次戦予告】 10 月 24 日～25 日 鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）

©2020 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.